山梨県立大学
【その他】

山梨県における介護版AEW育成の現状と課題
産官学の協働による人材育成のこころみ

山梨県立大学人間福祉学部　伊藤健次

【今後の展開 商品イメージ応用できる分野】

持続可能な介護を展開するには高度な現場人材が不可欠です。これは、介護に限らずあらゆるエッセンシャルワークの現場に共通する課題であると考えます。

AEW（アドバンスト・エッセンシャルワーカー）とは

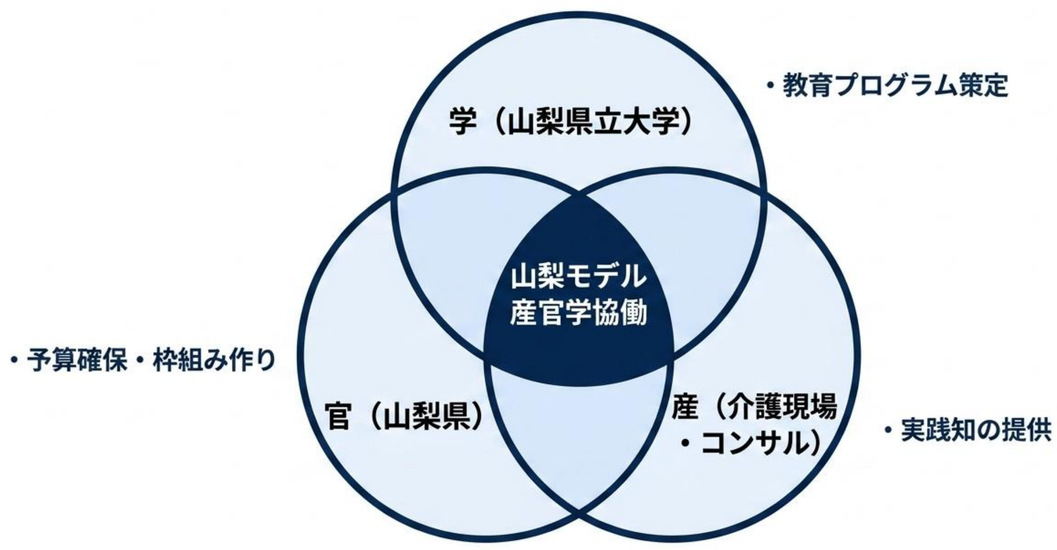
「デジタル技術等も活用して現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカー」「高度現場人材」のこと。
※エッセンシャルワーカー：医療、介護、物流、公共サービスなど、社会基盤の維持に欠かせない職業に従事する人

AEWが注目される背景

- 若年人口の減少による労働力不足
- 大学全入による非大卒層の縮小
- 生成AIの発達による雇用環境の変化
  （ホワイトカラーの需要減少などの需給ミスマッチ）
- 現場労働をテクノロジーで完全代替することは困難
  （現場とテクノロジーをつなぐ人材が必要）

山梨県における産官学での介護版AEW育成への取り組み

結果① 現状 - 「山梨モデル」の構築



結果① 現状 - 介護の生産性向上とAEW人材像

生産性の向上:
× 介助のスピードアップ・少人数化
○ 介護の価値を高めること

改革の担い手（AEW人材）

求められる人材像の３要素

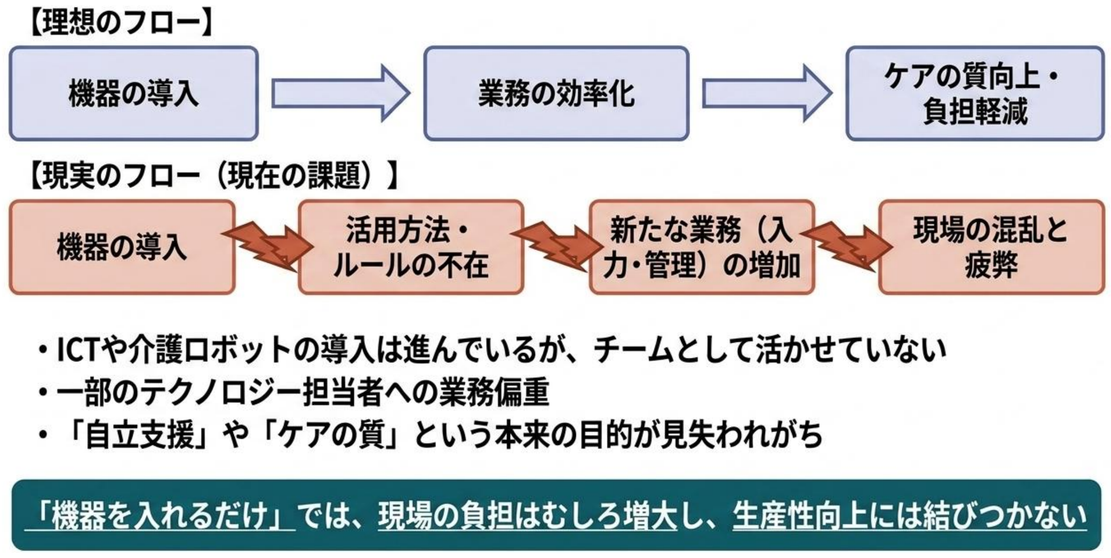
現場知性	テクノロジー活用力	マネジメント力
現場に根ざした判断で成果を生む	技術を運用に落とし込む	多様な人材を調整して組織を動かす

他分野と介護版AEWに求められることの比較

項目	一般産業界におけるAEW	介護領域におけるAEW
目的	スピード向上・コスト削減	人間らしさの回復・ケアの価値向上
生産性向上の意味	少人数でより多くの成果（生産量）を出すこと（省人化）	業務を最適化し、利用者と向き合う「時間」と「ゆとり」を創出すること
テクノロジーの役割	人間の労働の代替・自動化	職員の身体的・心理的負担の軽減と、データに基づくケアの根拠提供
「非効率」の捉え方	徹底的に排除すべきムダ	対話や寄り添いなど、あえて残すべき重要な「価値」

介護における生産性向上は「効率化・省人化」ではなく
「ケアの価値向上・人間らしさの回復」である

ICT・DXの導入で生じていること（課題）

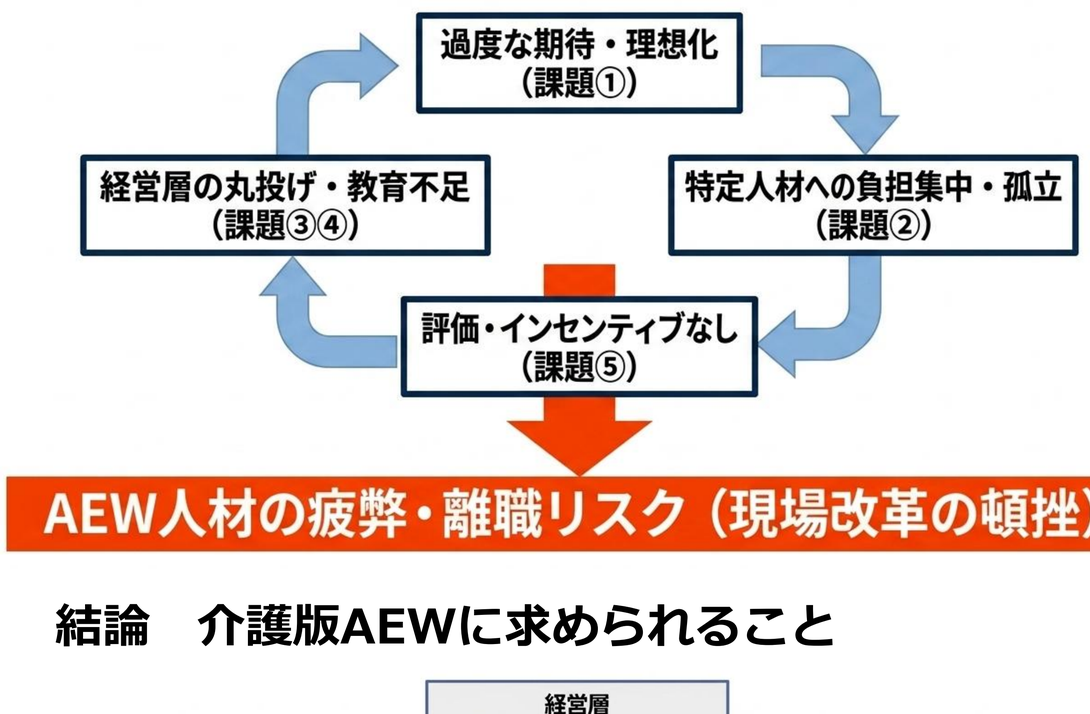


結果② 介護版AEW育成における5つの課題

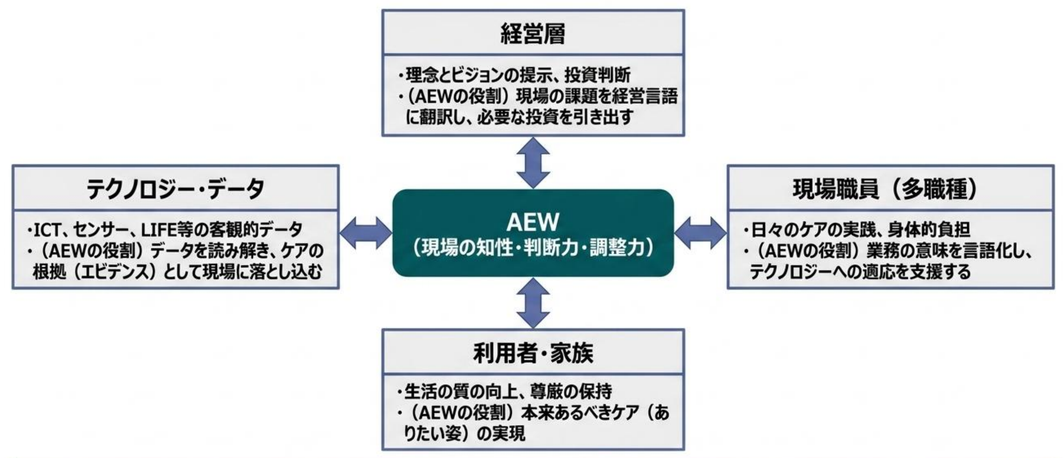
1. 過剰な理想化	2. 属人化と孤立	3. 教育の偏り
人材像の3要素を完璧に備えていることを要求	特定職員への責任集中、理解不足による疲弊	ケア技術重視。対話・マネジメント学習の機会不足

4. コミットメント不足	5. 評価制度の欠如
経営層の現場への丸投げ、技術導入を単なるコストと認識	挑戦が評価されず、インセンティブが機能していない

考察 - 課題が相互作用する「悪循環」



結論　介護版AEWに求められること



AEWは特別なIT専門職ではなく、現場・テクノロジー・経営をつなぐ「橋渡し役（ハブ）」である

介護版AEWの育成・定着には「現場向け教育プログラムの開発」と「経営層への啓発アプローチ」の2つが必要